

令和7年版 環境白書（環境に関する年次報告）の概要

1 年次報告の構成

本書は2部構成で、第5次環境基本計画（計画期間：令和3年～令和7年度）の施策体系に沿った構成としている。

施策の進捗状況を把握するため、目標に対する指標とその達成率を記載している。

構成	項目	内容
第1部	広島県の環境政策	環境問題の推移、環境政策の方向性
第2部	環境の現状と県の取組	—
第1章	ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けた地球温暖化対策の推進	省エネルギー対策等の推進、再生可能エネルギーの導入促進、カーボンサイクルの推進、気候変動を見据えた適応策の推進
第2章	循環型社会の実現	資源循環サイクルを拡大させた社会づくり、適正かつ効率的・安定的な廃棄物処理を支える社会づくり
第3章	地域環境の保全	良好な大気環境の確保、健全な水環境の保全・管理、化学物質による健康リスクの低減・土壌環境の保全、プラスチックごみの海洋流出防止対策、地域環境の維持・向上
第4章	自然環境と生物多様性の保全	自然資源の持続可能な利用、生態系の健全な維持管理
第5章	環境負荷の少ない社会を支える「人づくり・仕組みづくり」	環境学習・自主的な環境活動等の推進、環境関連産業の振興、環境配慮の仕組みづくり
付録	第5次環境基本計画における指標及びその進捗状況、環境関連事業費 等	

2 指標の達成状況

分野	計	達成 (達成率90%以上)	未達成 (達成率90%未満)	その他 [※]
第1章「ネット・ゼロカーボン社会の実現」	20	13	5	2
第2章「循環型社会の実現」	11	10	1	0
第3章「地域環境の保全」	30	29	1	0
第4章「自然環境と生物多様性の保全」	10	4	5	1
第5章「人づくり・仕組みづくり」	8	7	1	0
計	79	63	13	3

※ 「その他」は、進捗状況を途中年度で評価することが難しく、最終年度に評価することとしている指標

- 目標を達成となっている79項目中63項目については、引き続き、現状の水準を維持・向上できるように、効果的な施策を実施していく。
- 未達成の13項目については、その要因分析をして、目標達成のために必要な見直し等を検討し、順次取り組んでいくこととしている。

3 分野別の概要

(1) ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けた地球温暖化対策の推進 (P5～)

○ 県内の二酸化炭素排出状況

本県の令和3年度*の二酸化炭素排出量は、第3次広島県地球温暖化防止地域計画の基準年度である平成25年度に比べて19.4%減少している。部門別の状況を見ると、産業部門からの排出量が3,467万トンで、県全体の74.9%と最も大きな割合を占めている。

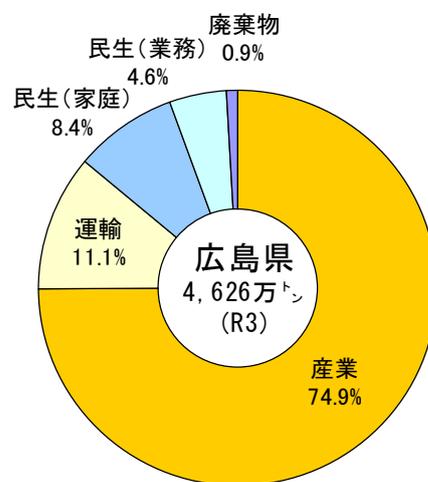
目標指標の達成状況については、産業部門・運輸部門・民生（家庭・業務）部門の排出量のいずれも目標を達成している。

2050年（令和32年）ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けては、さらなる削減対策が必要であり、省エネや再エネの推進とともに、カーボンサイクル等の取組を進め、環境と経済の好循環を図っていく。

※ 算定に必要な国の統計データの最新が令和3年度のため、県の算定値も令和3年度が最新値となっている。

二酸化炭素排出量と削減率（令和3年度）

区分	H25 基準年度 (万t-CO ₂)	R3 実績 (万t-CO ₂)	H25 からの削減率 (%)
広島県	5,736	4,626	▲19.4



【主な目標指標の達成状況】

指標項目(内容)	単位	基準年度値	現状値 (R6)	目標値 (R7)	目安※1	指標達成率※2	進捗状況
二酸化炭素排出量 (産業)	万t-CO ₂	4,094 (H25)	3,467 (R3)	3,100	3,431	99.0%	概ね達成
二酸化炭素排出量 (運輸)	万t-CO ₂	613 (H25)	515 (R3)	518	550	106.4%	目標どおり 達成
二酸化炭素排出量 (民生(家庭))	万t-CO ₂	579 (H25)	389 (R3)	344	422	107.8%	目標どおり 達成
二酸化炭素排出量 (民生(業務))	万t-CO ₂	405 (H25)	214 (R3)	215	278	123.0%	目標以上 達成
太陽光発電設備導入量	千kW	1,359 (R1)	1,875 (R5)	1,669	1,566	119.7%	目標どおり 達成

※1 目安は、目標値を現状で達成すべき水準に按分した数値

※2 指標達成率は、「目安」と「現状値」の比

(2) 循環型社会の実現 (P31～)

○ 廃棄物の排出状況

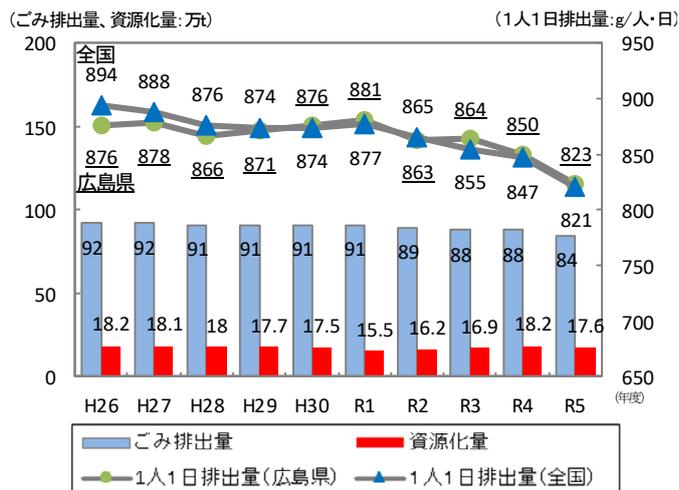
本県の令和5年度*の一般廃棄物排出量は84.3万t、産業廃棄物排出量は1,212万tであり、ともに目標どおり達成した。

また、産業廃棄物の不法投棄（投棄量10t以上の事案）は、目標の2件以下に対して発生は1件であり、目標を達成した。

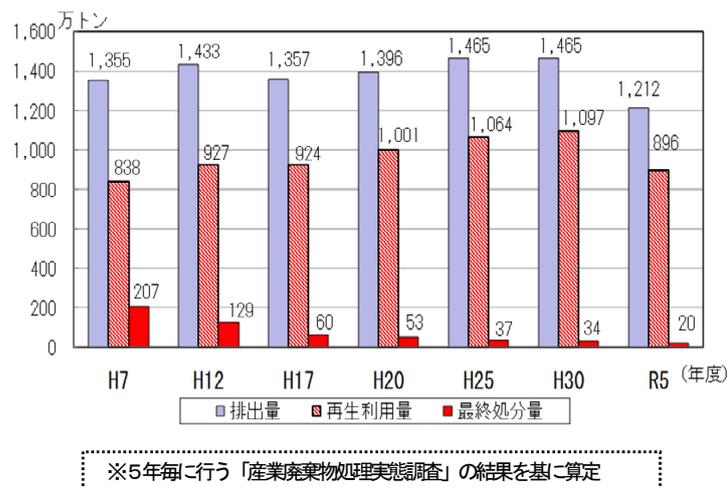
引き続き、従来の不法投棄防止のための取組に加え、電子マニフェストの普及促進による廃棄物トレーサビリティの強化、デジタル技術を活用した監視の高度化等によって不法投棄の未然防止に取り組んでいく。

※ 環境省公表の最新の一般廃棄物処理事業実態調査結果（令和5年度実績）により集計。

一般廃棄物の排出量の推移



産業廃棄物の排出量の推移



○ 電子マニフェストの普及

本県では、デジタル技術を活用した資源循環の促進に向けて、マニフェスト（産業廃棄物管理票）の電子化を進めており、普及率は堅調に増加しているものの、令和6年度普及率は66.7%で令和6年度目標に対しては未達成となっている。

今後とも、紙マニフェストの利用が多い事業者への個別説明や、導入・活用に関する講習会により、導入のメリットや手順を丁寧に説明するなど普及拡大に取り組み、廃棄物トレーサビリティの強化を推進していく。

【主な目標指標の達成状況】

指標項目(内容)	単位	基準年度値	現状値 (R6)	目標値 (R7)	目安	指標達成率	進捗状況
一般廃棄物排出量	万t	92.9 (H30)	84.3 (R5)	89.1	90.2	106.5%	目標どおり達成
一般廃棄物最終処分量	%	12.7 (H30)	9.8 (R5)	12.2	12.3	120.3%	目標以上達成
産業廃棄物排出量	万t	1,465 (H30)	1,212 (R5)	1,453	1,456	116.8%	目標どおり達成
産業廃棄物の不法投棄件数 (投棄量10t以上)	件	2.6 (H27~R1平均)	1	2	2.1	152.4%	目標以上達成
電子マニフェスト普及率	%	51.5 (H30)	66.7	80.0	75.9	87.9%	未達成

(3) 地域環境の保全 (P50～)

○ 大気汚染物質等の環境基準達成状況

県内 37 局の大気測定局における、令和 6 年度の測定では、二酸化窒素などの大気汚染物質は、光化学オキシダントを除き、全ての測定局において環境基準に適合するなど、ばい煙を発生する事業場への立入検査等の監視・指導等により、大気汚染物質指標の目標を全て達成しており、良好な大気環境が確保されている状況である。

○ 公共用水域等の環境基準達成状況等

本県では、河川 82 水域、海域 14 水域、湖沼 8 水域の公共用水域及び地下水において水質汚染状況を常時監視している。令和 6 年度の測定では、人の健康の保護に係る有害物質については、測定した 146 地点の全ての地点で環境基準を達成しており、健全な水質環境が維持されている状況である。

一方で、海域 COD 項目の環境基準達成率について、年度によって変動はあるものの、令和元年度と比較して、県西部及び東部海域の水域において環境基準が未達成となったことから、県全体の達成率が低下した。要因としては、県西部及び東部海域の水域における陸域（河川、工場、事業場等）や外海からの有機物の流入、内部生産等による上昇が考えられる。

また、有機フッ素化合物（PFAS）の一種である PFOS 等が、河川等で、暫定的な目標値を超過したことから、関係市と連携し、曝露防止の取組や継続的な監視調査を行うとともに、関係省庁や米国大使館に対し、米軍による川上弾薬庫の敷地内の水質や土壌の環境調査の実施等について、関係市と共同で要望した。

引き続き、工場・事業場などからの排水等について監視・指導を実施するとともに、公共用水域や地下水の水質及び底質の状況を把握するほか、PFAS については、関係市と連携し、継続的な監視を実施するとともに、敷地内の環境調査等が実施されるよう、様々な機会を捉えて日本政府や米国に要望していく。

○ プラスチックごみの海洋流出防止対策

令和 6 年度に実施した県内海岸漂着物実態調査によると、県内海岸に漂着する約 11 t のごみのうち、3 品目（ペットボトル、プラスチックボトル、レジ袋）の占める量は 1.5 t であり、令和 7 年度目標を上回るペースで減少している。

引き続き、2050 年までに新たに瀬戸内海に流出するプラスチックごみの量をゼロにする「2050 輝く GREEN SEA 瀬戸内ひろしま宣言」の実現に向け、「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム（略称「GSHIP（ジーシップ）」）」において、参画企業等と連携した、ワンウェイプラスチックの削減やプラスチックの資源循環の拡大、高度化に向けたモデル事業の実施に加え、ワンウェイプラスチックの削減に資する製品・サービス等の面的な普及・定着を進める社会実装化事業を展開するなど、海洋プラスチックごみ対策のさらなる拡大に取り組んでいる。

【主な目標指標の達成状況】

指標項目（環境基準達成率）		単位	基準年度値 (R1)	現状値 (R6)	目標値 (R7)	目安	指標達成率	進捗状況	
大気	二酸化窒素	%	100	100	100	100	100%	目標どおり達成	
	浮遊粒子状物質		100	100	100	100	100%	目標どおり達成	
水質	河川 BOD		92.7	93.9	環境基準の達成率の向上を図る	92.7	101.3%	目標どおり達成	
	地下水		81.6	89.8		81.6	110.0%	目標どおり達成	
	海域 COD		42.9	35.7		42.9	83.2%	未達成	
	海域全窒素		88.9	88.9		88.9	100%	目標どおり達成	
	海域全りん		100	100		100	100%	目標どおり達成	
	重金属等有害物質		100	100		100	100%	目標どおり達成	
ダイオキシン類環境基準達成率（大気・公共用水域・土壌）				100	100	100	100	100%	目標どおり達成
3 品目（ペットボトル、プラスチックボトル、レジ袋）の海岸漂着物量			t	8.4	1.5	7.9	8.0	181.3%	目標以上達成

(4) 自然環境と生物多様性の保全 (P90～)

○ 自然資源の持続可能な利用

自然公園では、生物多様性の確保など自然環境の保護を図るとともに、県民が自然とふれ合う場として適正な利用を推進している。

令和6年の自然公園利用者数は、8,271千人で、目標値の約86%にとどまっている。これは、利用者の約半数を占める宮島が訪日観光客数の増加により過去最多の利用者数となったものの、日本人観光客数については、人口減少や少子高齢化が進む中、長期的に横ばい傾向にあることや、猛暑日の増加により、外出を控えたことなどが影響していることが要因と考えられる。

引き続き、自然とふれ合う場として、安全で快適な自然公園や野外レクリエーション施設を運営し、県民の皆様の利用促進や、自然環境保全や野生生物保護への理解を深めていく。

自然公園等の利用者数

(単位：千人)

区 分	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
国 立 公 園	7,089	7,367	3,524	3,062	4,286	6,324	6,448
国 定 公 園	918	870	595	619	649	694	690
県 立 自 然 公 園	357	423	426	408	417	406	290
その他野外レクリエーション施設※2	952	981	677	847	1,003	866	843
合 計	9,316	9,642	5,222	4,936	6,353	8,289	8,271

※1 端数処理の関係で、合計は一致しないことがある。

※2 その他野外レクリエーション施設：県民の森、もみのき森林公園、県民の浜、中央森林公園、中国自然歩道、県自然歩道

○ 生態系の健全な維持管理

県内に生息する1万6千種を超える野生生物のうち、絶滅のおそれのある希少な野生生物について、生息・生育状況等の現状を把握するとともに、野生生物に関する情報の提供を行うため、レッドリスト（絶滅のおそれの程度に応じて設定したカテゴリーに分類評価したリスト）に選定した種について取りまとめた「レッドデータブック」を令和4年3月に改定した。

引き続き、生物多様性保全の重要性への理解促進と、多様な主体の参画による保全活動を推進する。

絶滅のおそれのある野生生物の種の選定状況（令和3年度）

分類群	県内 種数	カテゴリー別種数					選定 種数
		絶滅	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	情報不足等	
種子植物・シダ植物	2,928	4	111	153	151	38	457
コケ植物	719	0	37	9	5	3	54
藻類	1,258	0	1	2	13	16	32
地衣植物	382	1	3	5	7	0	16
菌類	700	0	7	9	26	0	42
海藻類	約200	0	3	1	1	5	10
哺乳類	43	2	7	5	8	1	23
鳥類	302	1	6	9	17	14	47
爬虫類	16	0	0	1	4	0	5
両生類	19	0	1	8	4	1	14
魚類	548	2	9	9	21	16	57
昆虫類	8,318	15	43	48	89	36	231
貝類	708	16	40	25	22	27	130
その他無脊椎動物	412	0	4	4	21	14	43
合計	16,553	41	272	288	389	171	1,161

【主な目標指標の達成状況】

指標項目（内容）	単位	基準年度値 (R1)	現状値 (R6)	目標値 (R7)	目安	指標達成率	進捗状況
自然公園利用者数	千人	9,642	8,271	基準年度値 より増加	9,642	85.8%	未達成

(5) 環境負荷の少ない社会を支える「人づくり・仕組みづくり」(P103～)

○ 環境学習・環境活動の推進

県では、県民の自主的な環境保全活動を促進し参加機会の拡大を図るため、各地で行われている取組に関する情報提供や、地域で緑化活動や美化活動などを行っている団体等の活動支援、環境学習講師の派遣など、環境保全活動の拡大に向けた支援を行っている。

環境学習講師派遣学習会の受講者数については、令和6年度目標を上回るペースで達成しており、今後も、環境保全に係る学習機会を増やすように情報発信を続けていく。

○ 環境配慮の仕組みづくり

環境問題に関心の深い企業や団体、行政などが連携して環境にやさしい地域づくりを協働して進めることなどを目的として設立されたひろしま地球環境フォーラム等と連携して、講演会やセミナー等を行っている。

目標指標の達成状況については、「ひろしま地球環境フォーラム会員のうち、SDG s と関連付けて事業活動を行っている事業者の割合」は概ね目標を達成し、「環境経営やSDG s に関するセミナー等受講事業者数」は目標以上に達成しており、引き続き事業者に対して、環境経営やSDG s についての情報発信を行い、連携して環境に配慮した取組を推進する。

【主な目標指標の達成状況】

指標項目 (内容)	単位	基準年度値 (R1)	現状値 (R6)	目標値 (R7)	目安	指標達成率	進捗状況
環境学習講師派遣学習会の受講者数	人	113 (R2)	792	700	700	113.1%	目標どおり達成
ひろしま地球環境フォーラム会員のうち、SDG s と関連付けて事業活動を行っている事業者の割合	%	29.7	67.4	75	70	96.3%	概ね達成
環境経営やSDG s に関するセミナー等受講事業者数	人	65 (R2)	112	80	80	140.0%	目標以上達成